

2021年6月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社エンビプロ・ホールディングス
2020年11月9日



1. 第1四半期 決算概要
2. 新型コロナウイルス感染拡大への
対応と今後の見通し
3. 参考資料

1. 第1四半期 決算概要

第1四半期 ハイライト

連結業績

売上高	7,439百万円	(前年同期比 26.7%減)
営業利益	129百万円	(前年同期比 70.8%減)
経常利益	216百万円	(前年同期比 55.7%減)
<u>四半期純利益</u>	139百万円	(前年同期比 56.6%減)

主要TOPICS

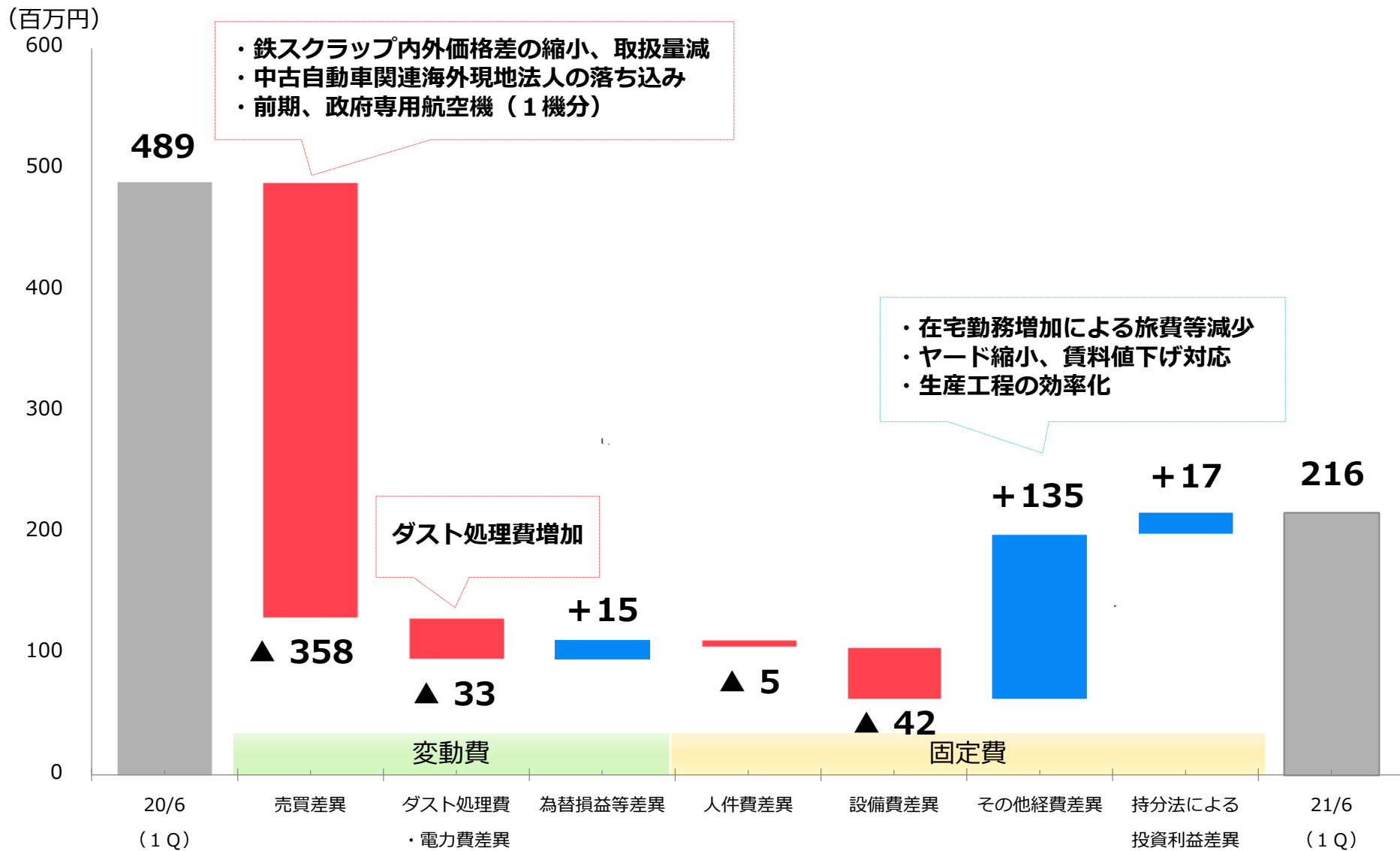
- 鉄スクラップ価格（東京製鐵田原海上特級価格）期中平均価格は23,225円（前年同期25,364円）期首24,500円から期末時点で27,000円まで上昇
- コロナ危機に対する基本姿勢として「キャッシュ・イズ・キング」、「仕事のリストラ」、「存在意義の再確認」を基本方針に掲げ、基盤強化を推進
- 新規事業関連分 経常損失37百万円（LIBリサイクル関連等）
- 新規事業のLIBリサイクル関連の集荷・生産体制の整備が進捗
- 設備投資1.7億円（検収ベース）
- 前年同期は政府専用航空機の販売があり、一時的な収益が発生

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

※LIB：リチウムイオン二次電池

（金額、数量は切り捨て表示：％は四捨五入表示）

連結経常利益差異分析（前年同期比）



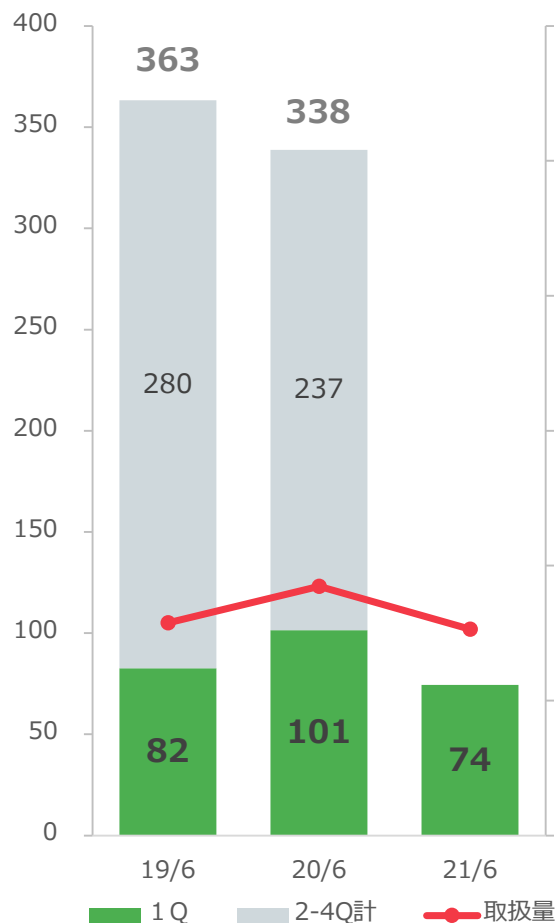
連結業績推移

売上高 (取扱量)

前年同期比
26.7%減

(単位：億円)

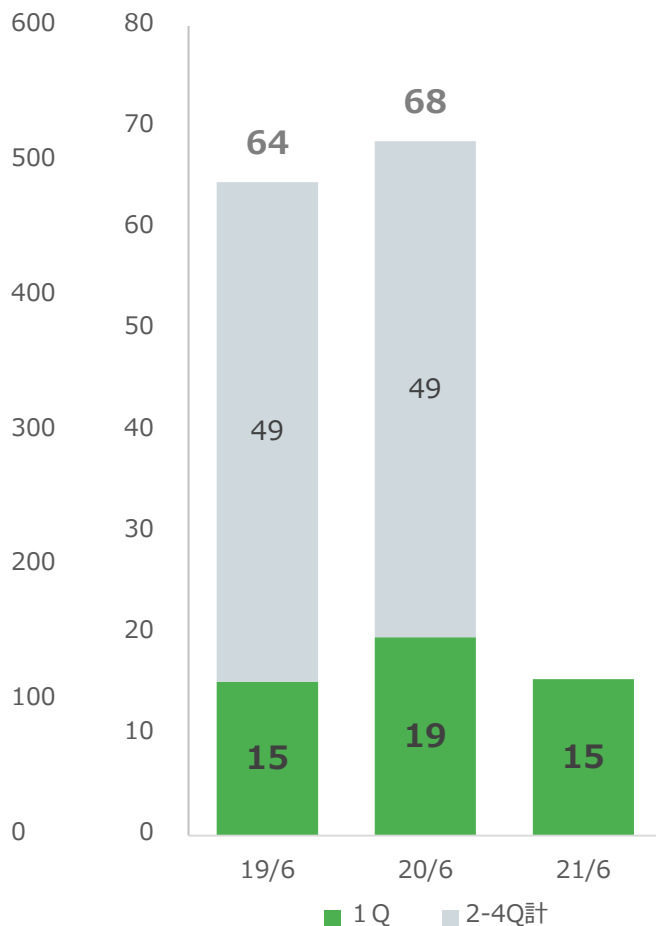
(単位：千 t) (単位：億円)



売上総利益

前年同期比
21.2%減

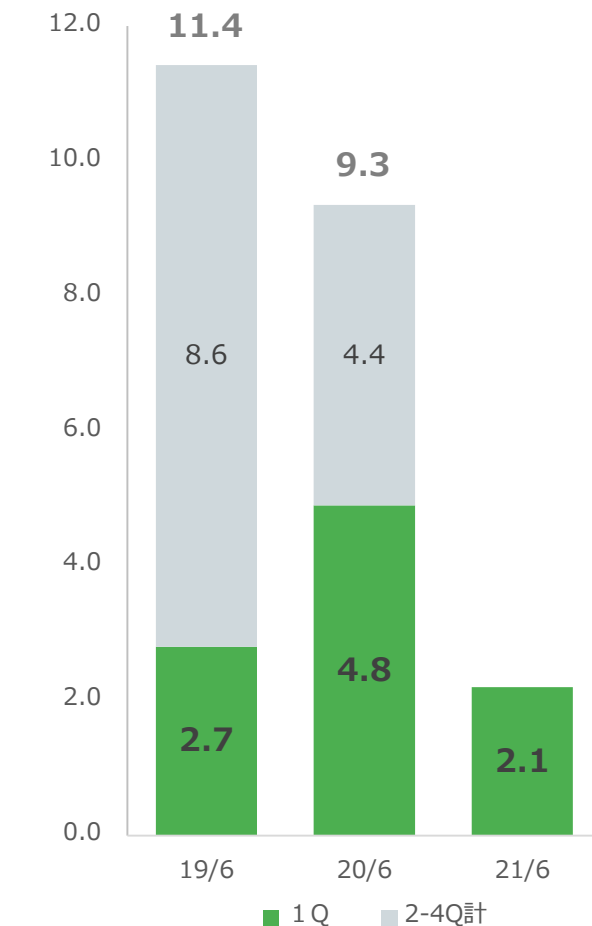
(単位：千 t) (単位：億円)



経常利益

前年同期比
55.7%減

(単位：億円)



連結貸借対照表概要



(単位：百万円)

	2020年 6月末	2020年 9月末	増減額		2020年 6月末	2020年 9月末	増減額
流動資産	16,529	16,490	▲ 38	流動負債	7,499	7,655	155
固定資産	9,383	9,384	0	固定負債	6,401	6,223	▲ 177
（有形固定資産）	6,729	6,682	▲ 46	負債合計	13,900	13,878	▲ 21
（無形固定資産）	70	65	▲ 4	純資産	12,012	11,996	▲ 15
（投資その他の資産）	2,584	2,636	52	（自己資本）	11,654	11,630	▲ 24
資産合計	25,913	25,875	▲ 37	負債純資産合計	25,913	25,875	▲ 37

主要TOPICS

- 流動資産（その他流動資産320百万円、商品及び製品91百万円、現金及び預金▲552百万円）
- 固定資産（投資有価証券51百万円、建物及び構築物▲33百万円）
- 流動負債（短期借入金110百万円、1年内返済予定の長期借入金53百万円）
- 固定負債（リース債務49百万円、長期借入金▲231百万円）
- 自己資本比率 44.9%（2020年6月末 45.0%）

セグメント別業績概要



(単位：百万円)

売上高	2020年6月期 第1四半期	2021年6月期 第1四半期		前年同期比
	実績	実績	構成比	増減率
連結	10,147	7,439	100.0%	▲ 26.7%
資源循環事業	2,831	2,829	34.2%	▲ 0.1%
グローバル資源循環事業	6,419	4,162	50.3%	▲ 35.2%
中古自動車関連事業	1,760	1,194	14.4%	▲ 32.1%
その他	81	94	1.1%	16.9%
調整額	▲ 944	▲ 842	-	-

セグメント利益	2020年6月期 第1四半期	2021年6月期 第1四半期		前年同期比
	実績	実績	構成比	増減率
連結	489	216	100.0%	▲ 55.7%
資源循環事業	191	204	68.7%	7.1%
グローバル資源循環事業	258	42	14.2%	▲ 83.6%
中古自動車関連事業	40	19	6.6%	▲ 52.3%
その他	16	31	10.5%	85.5%
調整額	▲ 18	▲ 81	-	-

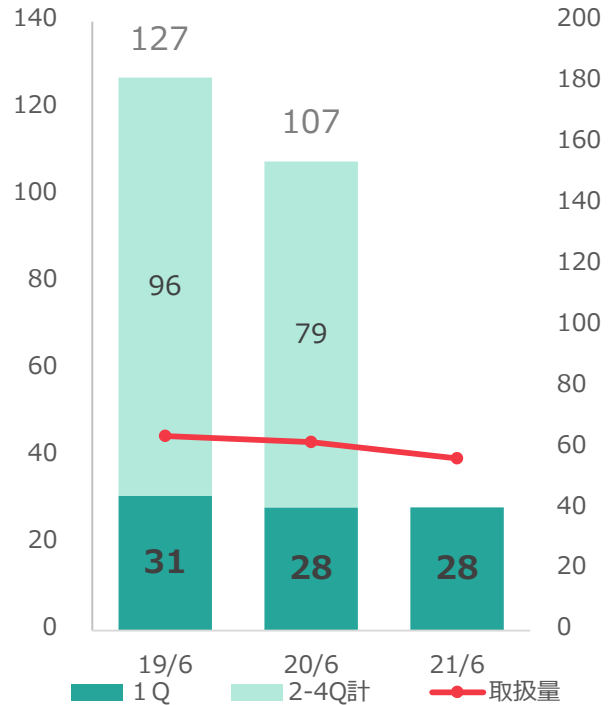
セグメント別業績推移【資源循環事業】

売上高（取扱量）

前年同期比

0.1%減

(単位：億円)



売上総利益

前年同期比

2.3%減

(単位：億円)

(単位：千t)

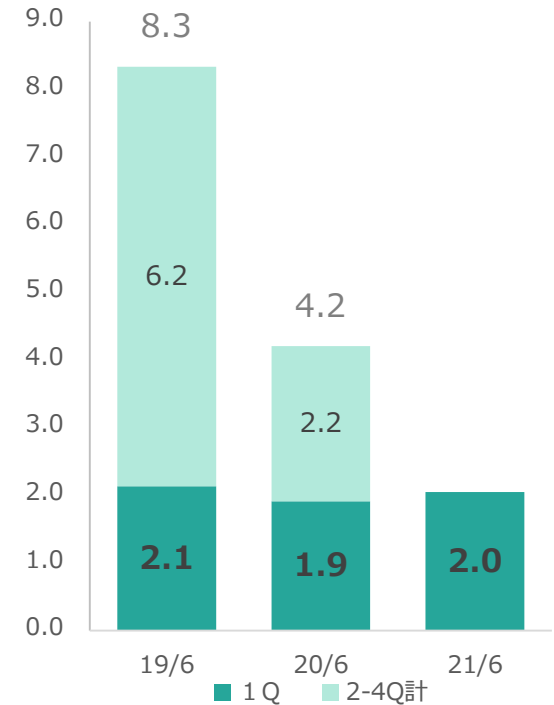


経常利益

前年同期比

7.1%増

(単位：億円)



- 鉄・非鉄スクラップ相場は上昇基調で推移。
- 最終処分場の逼迫問題は廃棄物発生量の減少により緩和し、操業が安定。
- 廃棄物処理受託価格の是正の効果により収益性を確保。
- 金属スクラップ・廃棄物の入荷量は前年同期で減少。
- 新規事業のLIBリサイクル関連の費用が先行。取扱量は大手EV電池メーカーからの仕入や、処分業許可を活用した処理受託量の確保により進捗。

※グラフは百万円未満を切り捨てて作成

セグメント別業績推移【グローバル資源循環事業】



売上高（取扱量）

前年同期比

35.2%減

(単位：億円)



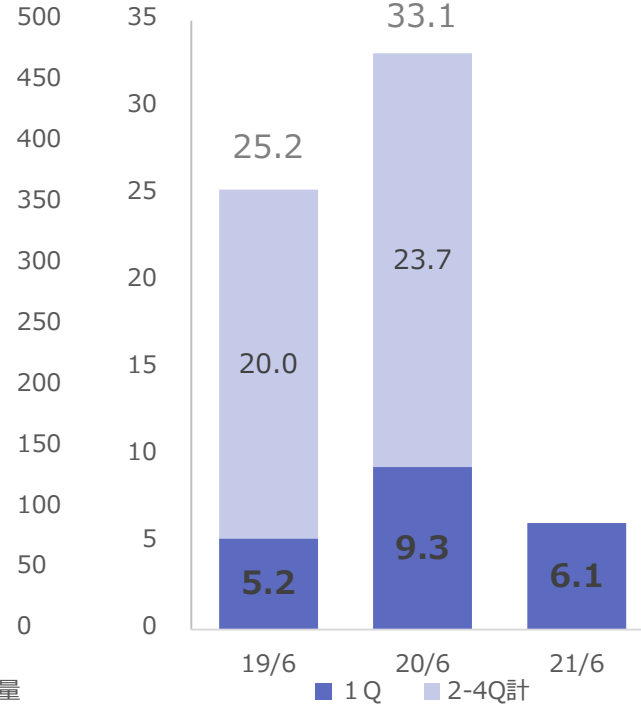
売上総利益

前年同期比

34.4%減

(単位：億円)

(単位：千t)

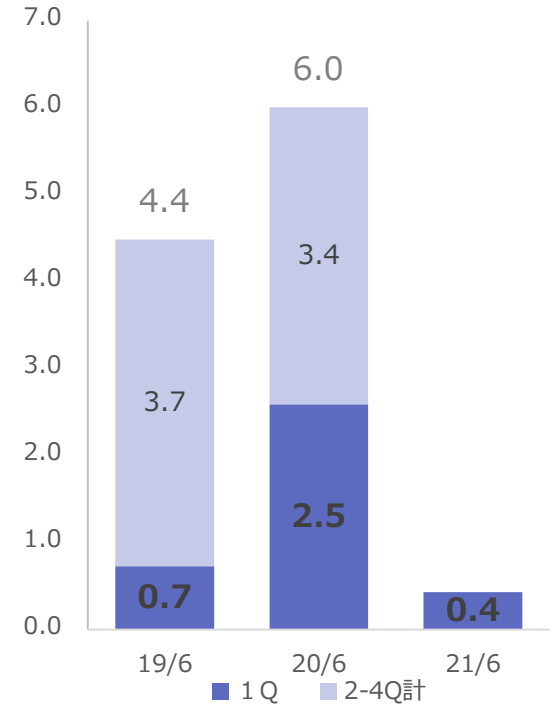


経常利益

前年同期比

83.6%減

(単位：億円)



- 前年同期は政府専用航空機の販売による一時的な収益が発生。
- 国内鉄スクラップの需要増加、それに伴う価格上昇により内外価格差が縮小。
- 市場流通量減少による、鉄・アルミ・ステンレス系スクラップ取扱量の減少。
- 銅系スクラップは販売力強化により取扱量が増加し収益に貢献。
- 新規事業のバイオマス燃料事業は市場拡大に向けた体制強化を継続。

※グラフは百万円未満を切り捨てて作成

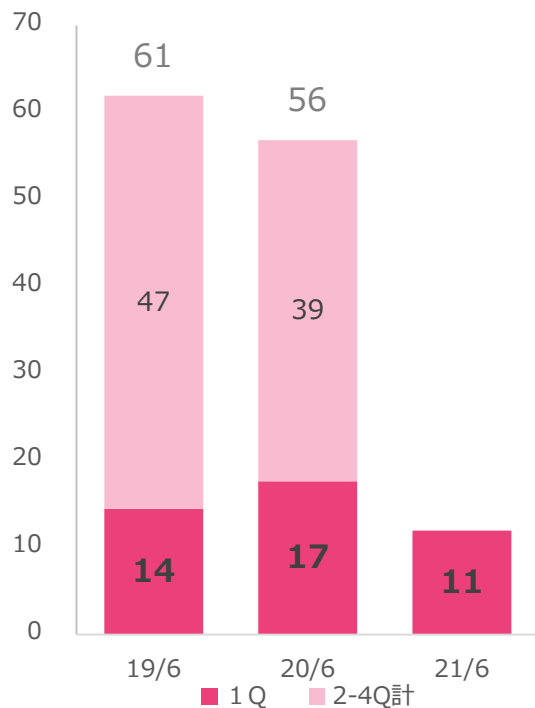
セグメント別業績推移【中古自動車関連事業】

売上高

前年同期比

32.1%減

(単位：億円)

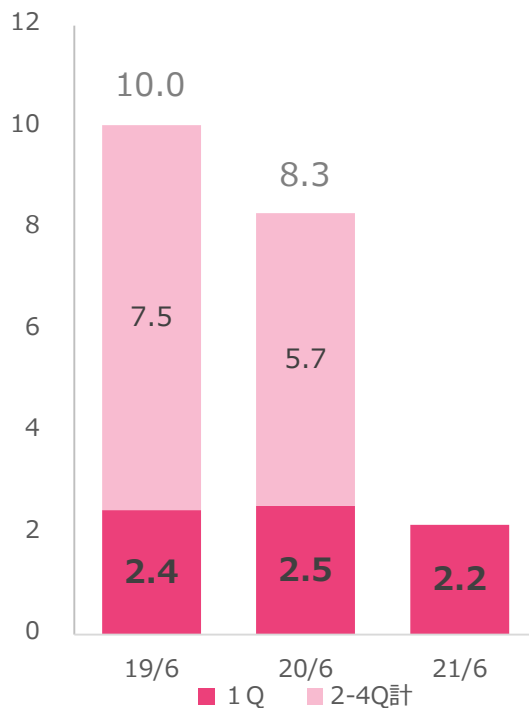


売上総利益

前年同期比

9.5%減

(単位：億円)

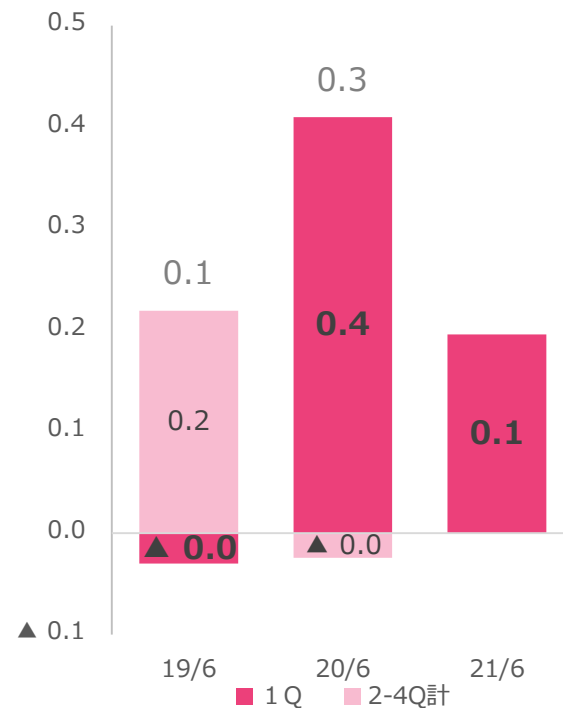


経常利益

前年同期比

52.3%減

(単位：億円)



- 主要輸出先国の中古車需要は当初想定に比べ早期に回復。
- チリの一部地域のロックダウンが継続。
- 前期好調であった東南アジア向け中古トラック部品の販売が減少。
- ヤード管理費の見直し等による固定費の削減。
- 休業者に対する政府補償の活用。

※グラフは百万円未満を切り捨てて作成

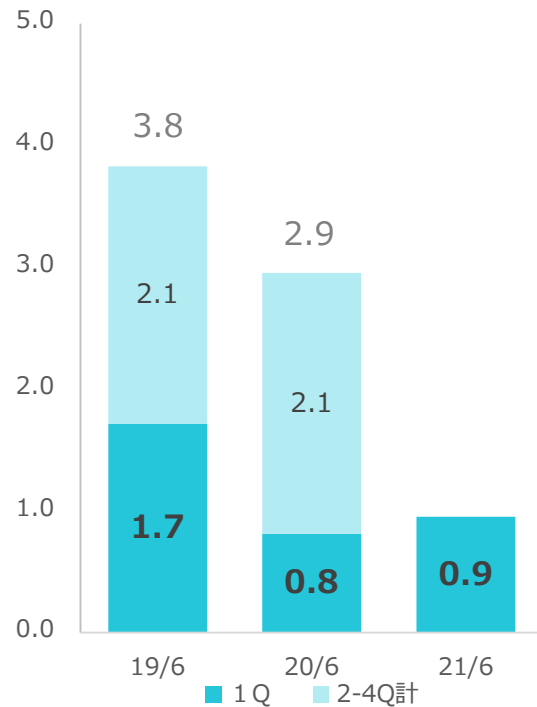
セグメント別業績推移【その他】

売上高

前年同期比

16.9%増

(単位：億円)

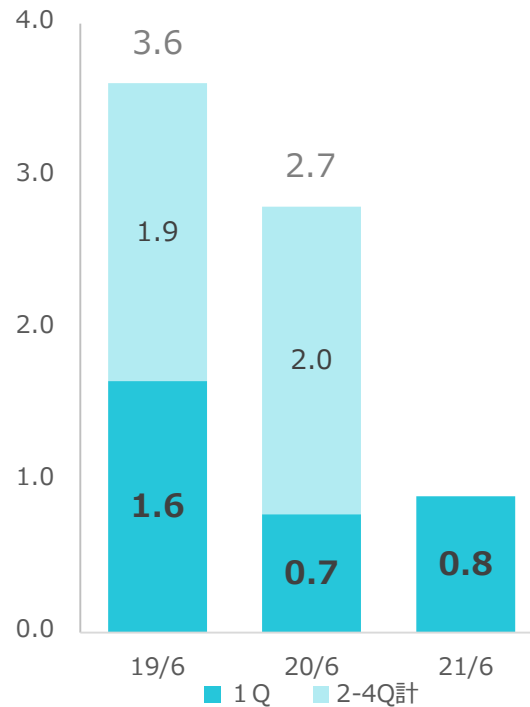


売上総利益

前年同期比

15.3%増

(単位：億円)



経常利益

前年同期比

85.5%増

(単位：億円)



《環境経営コンサルティング事業》

- CDP回答及び評価向上支援およびTCFD対応支援等の継続受注。
- サーキュラーエコノミー支援の注力。

《障がい福祉サービス事業》

- 長野エリアの事業所の利用率が堅調に推移。
- 関東エリアの事業所においても前期を上回る収益を確保。

※グラフは百万円未満を切り捨てて作成

※その他には、2018年12月までの(株)E 3を含む

2. 新型コロナウイルス感染拡大への 対応と今後の見通し

感染拡大防止への取り組み

新型コロナウイルス対策基準を制定し、状況変化に合わせてながら逐次改訂、従業員及び関係者への周知を徹底して実施

コロナ危機に対する基本方針

キャッシュ・イズ・キング（短期的観点の取り組み）

営業、管理、生産の全ての部門でキャッシュ管理を徹底する

- ・ 人件費、経費の管理強化
- ・ 不採算事業、業態の見直し
- ・ 労働安全体制を強化して事故や労災による資金流失の防止

仕事のリストラ（中期的観点の取り組み）

コロナ禍をきっかけに今までの仕事のやり方を根本から見直し、会社を大きく「変容」させる

- ・ リモートワークやWEBミーティング、フレックスタイム制の実行
- ・ IoTやロボットを活用したプラントの遠隔管理の研究
- ・ メンバーシップ型からジョブ型への移行と評価の仕組みづくりを模索

存在意義の再確認（根本的かつ長期的観点の取り組み）

持続可能社会実現のために世の中から強く必要とされる会社になる

- ・ リサイクル原材料製造メーカーとしてのサーキュラーエコノミーの実現
- ・ 資源循環×デジタルで、プラットフォーマーとしての役割を強化して資源回収効率を向上
- ・ 化学系の技術を駆使したリサイクルシステムを確立して100%リサイクルを実現

資源循環事業

- ・ 金属スクラップ、廃棄物発生量は回復傾向にあり。価格は上昇傾向。
- ・ 貴金属価格が上昇。金銀滓の収益性が向上。
- ・ 弾性舗装材市況は企業のコスト削減の動きもあり、前年に比べ8割程度で推移。

グローバル資源循環事業

- ・ 国内鉄スクラップ価格が上昇傾向、内外価格差に影響。
- ・ ミックスメタルは中国、マレーシアからの引き合いが堅調。
- ・ マレーシアでは一部地域で再度ロックダウンがあり、PKSの集荷難を懸念。

中古自動車関連事業

- ・ 海上運賃の上昇（価格転嫁はできており影響は軽微）に加え、スペースの確保も困難な状況が続き、出荷サイクルの遅れが発生。
- ・ 物流代行サービスはロックダウン緩和後の回復需要を取り込むことに成功。しかし、一部の仕向地で再度ロックダウンの実施を懸念。
- ・ 中古トラック部品の主要向け地である東南アジア向けの市況が回復傾向。

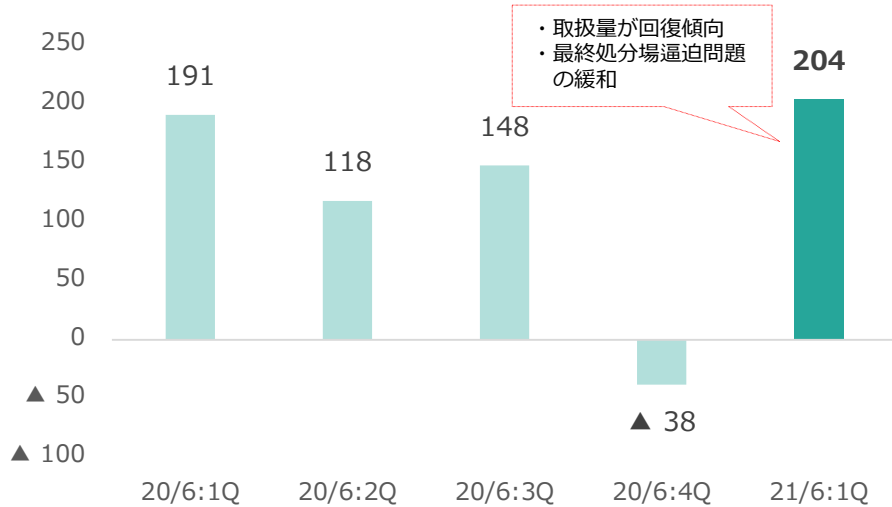
その他

- ・ 環境経営コンサルティング事業ではコロナ禍の影響なく受注を獲得。
- ・ 障がい福祉サービス事業では事業所内を含め感染対策を徹底し、事業を継続。

セグメント利益四半期推移

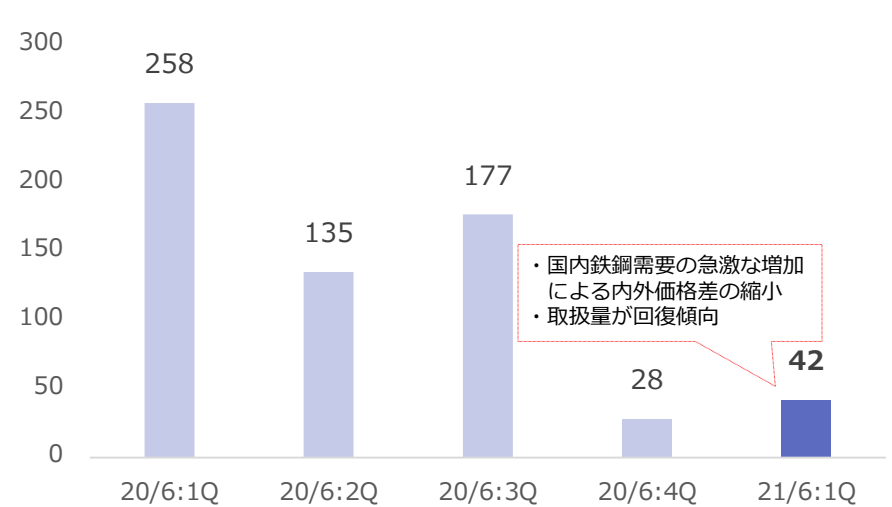
(単位：百万円)

資源循環事業



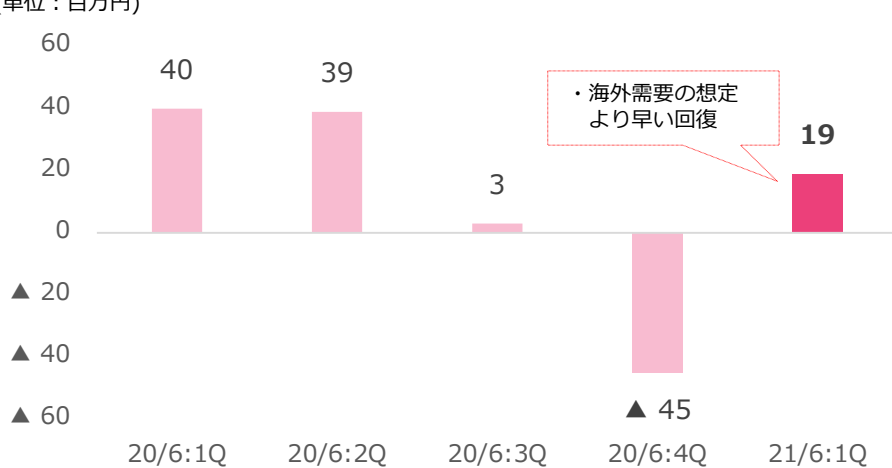
(単位：百万円)

グローバル資源循環事業



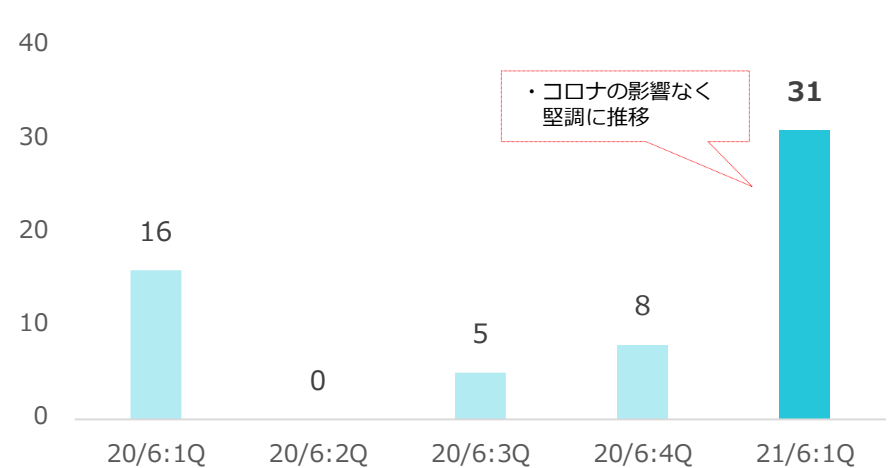
(単位：百万円)

中古自動車関連事業



(単位：百万円)

その他



2021年6月期連結業績見通し



(単位：百万円)

	2020年6月期 通期	2021年6月期 通期	前年同期比		2021年6月期 第1四半期	
	実績	予想	増減額	増減率	実績	進捗率
売上高	33,879	28,860	▲ 5,019	▲14.8%	7,439	25.8%
売上総利益	6,861	6,726	▲ 135	▲2.0%	1,544	23.0%
営業利益	790	510	▲ 280	▲35.5%	129	25.3%
経常利益	934	600	▲ 334	▲35.8%	216	36.1%
税金等調整前当期純利益	918	614	▲ 303	▲33.1%	215	35.0%
当期純利益※	602	410	▲ 192	▲31.9%	139	34.1%
限界利益※	6,632	6,557	▲ 75	▲1.1%	1,535	23.4%
EBITDA※	1,389	1,295	▲ 93	▲6.7%	314	24.3%
純粋固定費※	5,821	6,038	217	3.7%	1,384	22.9%
ROE	5.3%	3.6%	▲1.7%	▲32.1%	-	-

業績予想前提条件

感染拡大の影響

上期：経済活動の低迷から取扱量約8割の推移を想定

下期：経済活動の改善を見込み取扱量8割から徐々に回復していくことを想定

業績予想前提条件：鉄相場20千円/t(27.0千円)、銅相場550千円/t(740千円)、為替105円/USD(105円台)

※()内は9月30日時点価格

本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

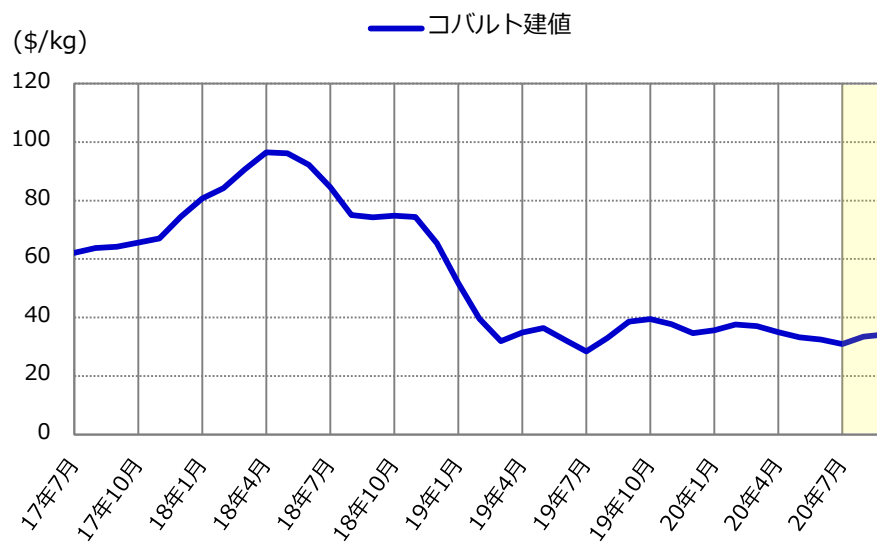
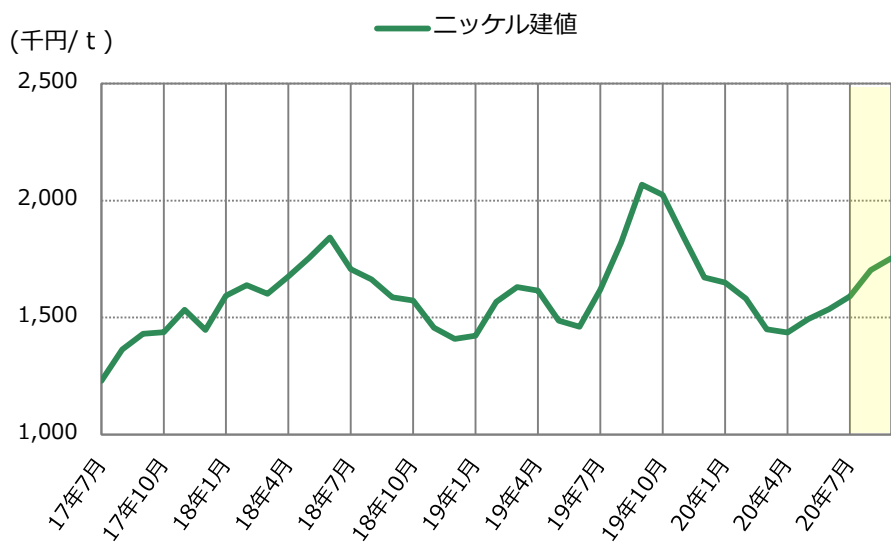
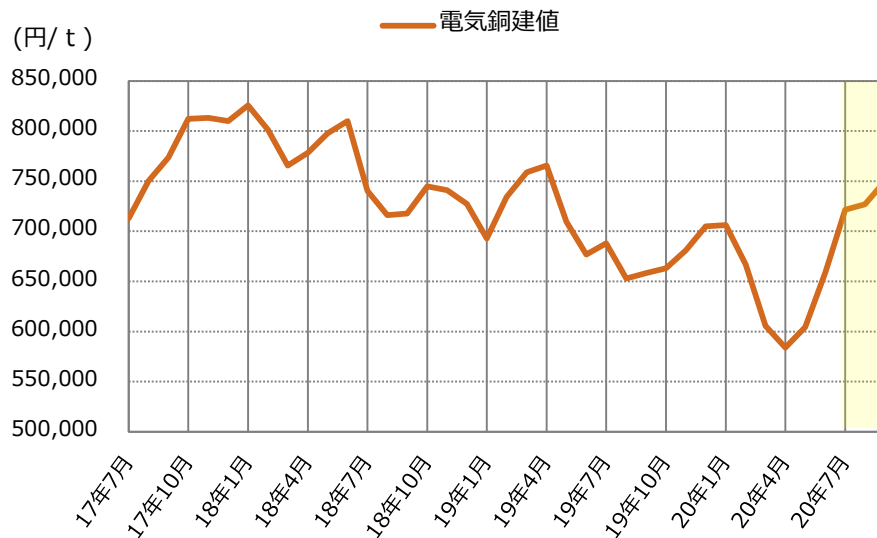
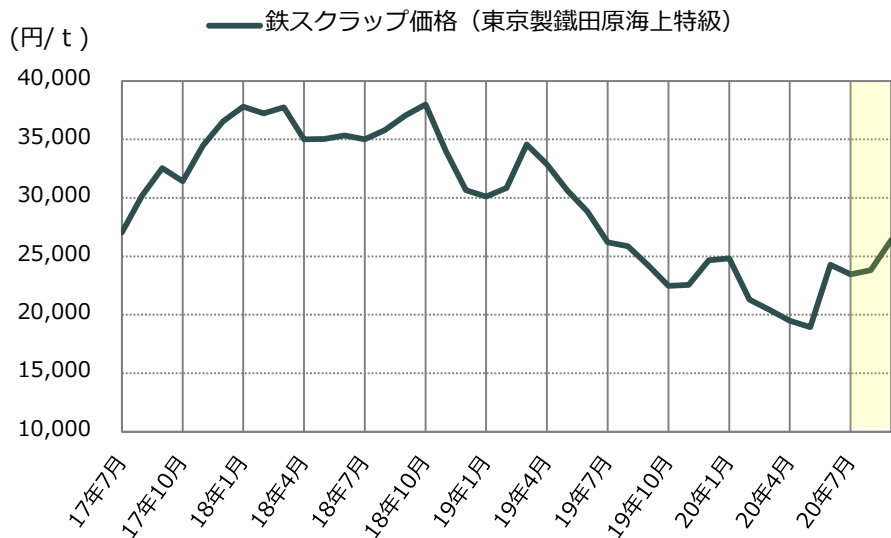
※限界利益＝売上高－変動費

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却

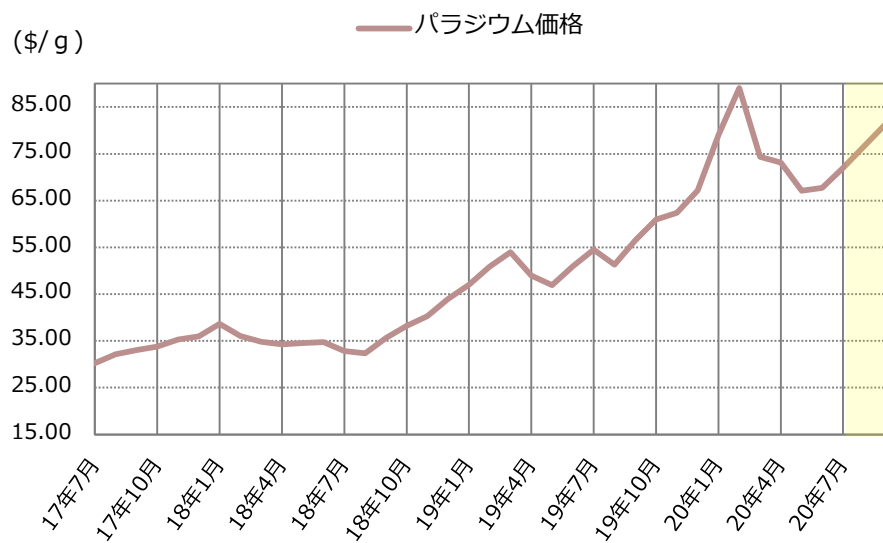
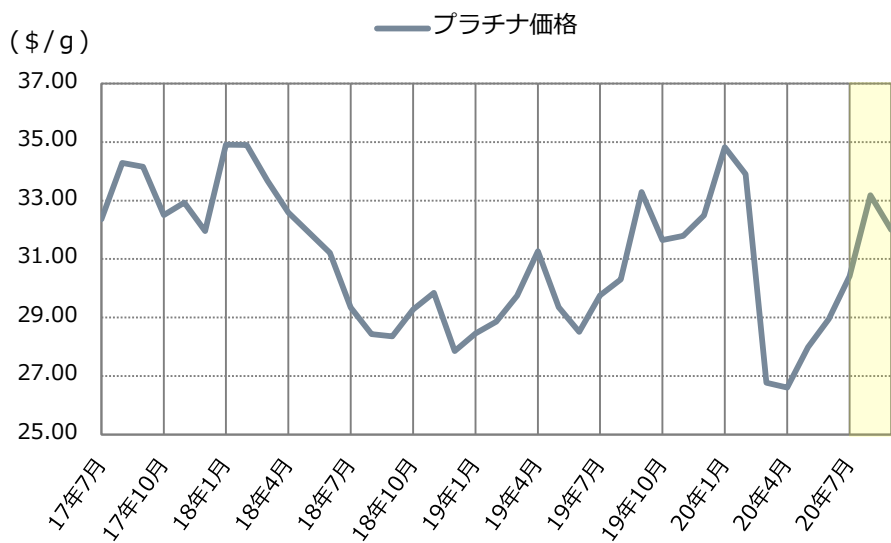
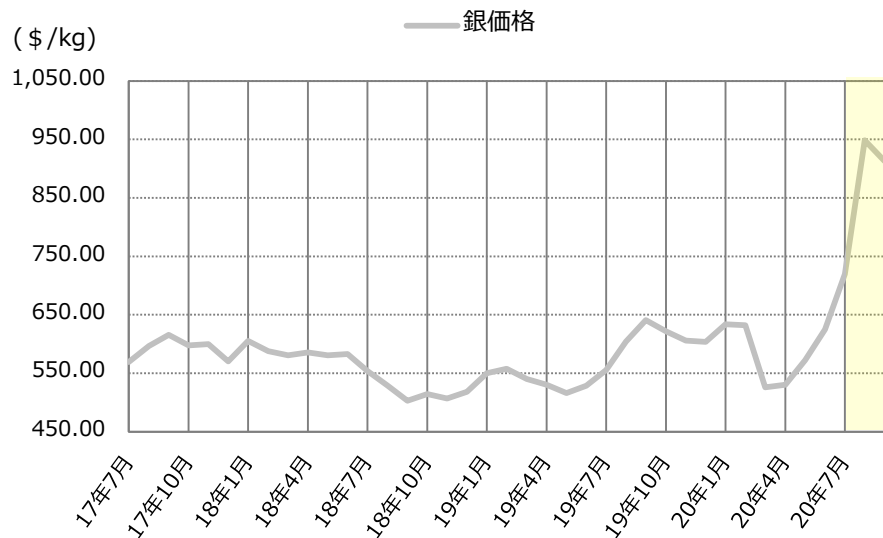
※純粋固定費＝【売上原価・販管費・営業外費用の固定費相当分】－【為替差益・持分利益を除いた営業外収益分】

3. 參考資料

相場推移①

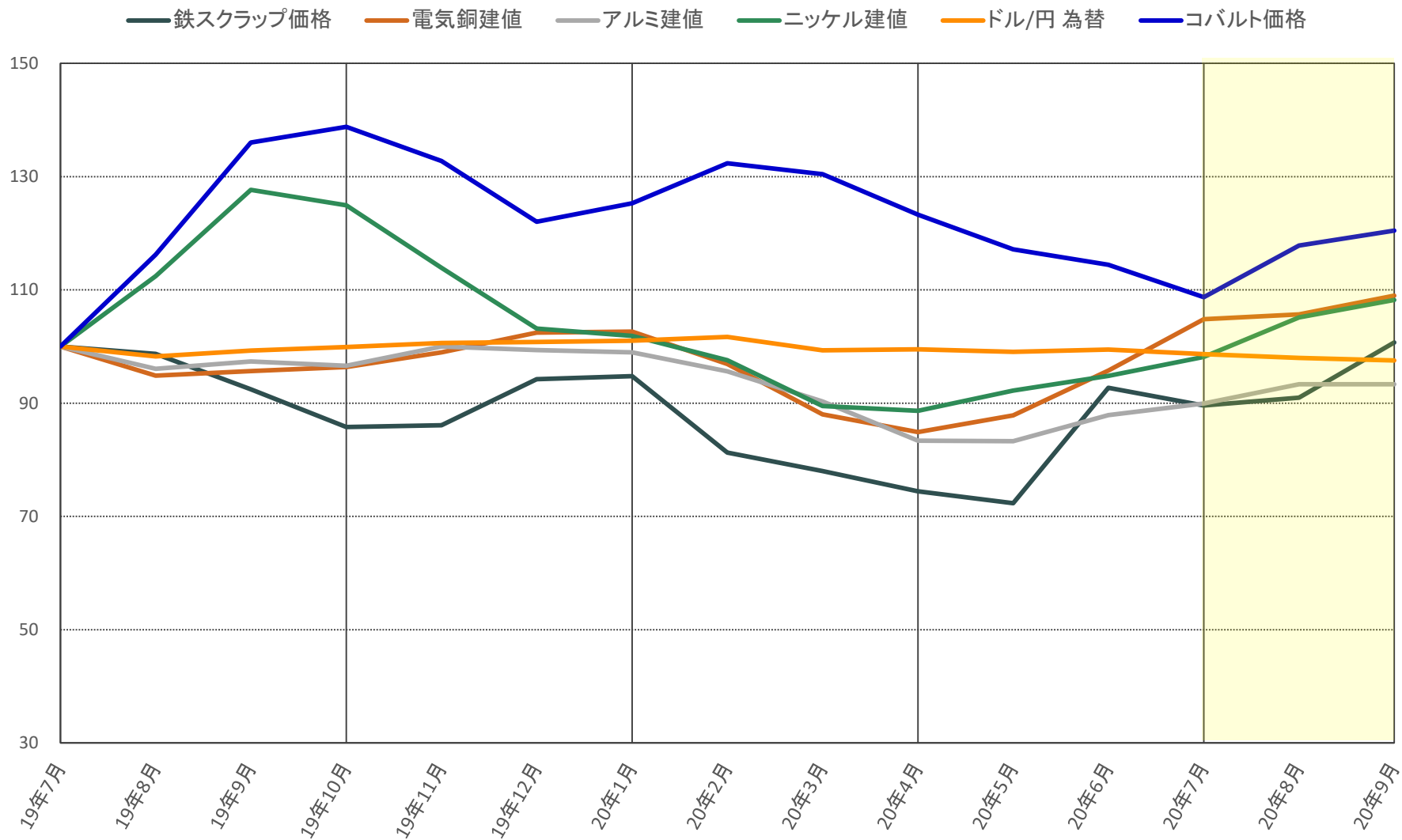


相場推移②



相場推移③

金属相場の推移 (INDEX推移 2019年7月を100とする)



(出所) 東京製鐵(株)、J X金属(株)、(株)日本経済新聞社、(株)日刊産業新聞社、IRUNIVERSE(株)

- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社エンビプロ・ホールディングスの現状を理解していただくために作成したものです。
- 本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

【本資料及びIRに関するお問い合わせ先】

株式会社エンビプロ・ホールディングス 経営企画部

TEL (0544) 21-3160

URL <https://www.envipro.jp/>